

ユータックカラコンプライマー

【初版】

■特長

- ・カラーコンクリート、強化コンクリートとの付着性に優れています。
- ・刷毛、ローラー塗装の作業性に優れています。

■用途

- ・カラーコンクリート、強化コンクリート下塗り

■主な適用下地

- ・カラーコンクリート ・機械押さえコンクリート
- ・強化コンクリート ・コンクリート ・モルタル
- ・既存塗膜：エポキシ樹脂塗料、硬質ウレタン樹脂塗料
(注：試験施工は必要です)

■色相

- ・ A液：クリアー ・ B液：黄色クリアー

■主な適用上塗り

- ・ユータックスーパーFハードN ・ユータックE-30N
- ・ユータックE-30Nローラー用 ・ユータックE-30 (K)
- ・ユータックE-40 ・ユータックR
- ・ユータックス ・ユータックRマイルド
- ・ユータックE素地調整材ECOグレー
- ・ユータックE樹脂モルクリヤー

■可使時間

温度	5℃	15℃	23℃	35℃
可使時間	8時間以内	8時間以内	8時間以内	6時間以内

■適用希釈剤

- ・ユータックEシンナー

■施工間隔（塗り重ね間隔）

温度	5℃	15℃	23℃	35℃
施工間隔	8時間以上 72時間以内	5時間以上 72時間以内	3時間以上 72時間以内	2時間以上 72時間以内

■容量・調合割合

- ・ 16kgセット (A液：12kg B液：4kg)
- ・ 4kgセット (A液：3kg B液：1kg)
- ・ 調合比 (A液：B液＝3：1)

■施工方法

- ・刷毛、ローラー

■主な法令関連（詳細はSDSをご参照ください）

消防法による危険物区分	A液：第4類第一石油類（非水溶性液体）危険等級Ⅱ B液：第4類第一石油類（非水溶性液体）危険等級Ⅱ
有機則/特化則	A液：第2種有機溶剤/特別有機溶剤等（メチルイソブチルケトン） B液：第2種有機溶剤/特別有機溶剤等（エチルベンゼン）

■施工仕様

工程	材料の調合	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ²)	施工間隔 (23℃)
下地調整	・ 下地の種類、状況を確認してください。 ・ 下地は十分に乾燥していることを確認してください（「ケツト水分計：HI-520シリーズ」のコンクリートレンジの表示値5%以下が目安です）。強化コンクリートの種類によっては、測定できない場合がありますので、その場合は、ビニルシートをコンクリート面に張り付け、端部をテープでシールし、翌日以降にビニルシートやコンクリート表面の色を確認し、水分がある場合は、送風機等で乾燥させてください。 ・ 下地は十分な強度が必要です。表面強度……1.5N/mm ² 以上、圧縮強度……21N/mm ² 以上。 ・ 塗装表面は、ライナックスなどの研削機やブラストで十分に研磨を行ってください。 ・ ゴミ、ホコリ、油脂類は、完全に除去してください。				
下塗り	・ ユータックカラコンプライマー A液 12kg ・ ユータックカラコンプライマー B液 4kg ・ ユータックEシンナー 0~2.4kg	刷毛 ローラー	8時間以内	0.15	3時間以上 72時間以内
上塗り	・ 適用上塗りの仕様をご参照ください。				

<注意事項> 次ページもお読みください。

- 新設・改修工事ともに下地処理は必ず行ってください。下地調整については、「製品案内 ニットクの塗り床材 ユータックシリーズ」などのユータック素地調整仕様やユータック改修下地調整仕様、ユータック施工上の注意事項をお読みいただき、適切な下地調整を行ってください。
- 欠損部、段差などの凹凸部分は、本製品施工後、「NTエポキシパテ」や必要に応じて珪砂などを混合した「ユータックE-30N」や「ユータックE素地調整材ECOグレー」など上塗り適正のある材料を使用して平滑にしてください。
- ひび割れは本製品を施工後、ひび割れの幅に応じて、UまたはVカットし、「NTエポキシパテ」など上塗り適正のある材料で処理してください。
- 次の下地への施工はできない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
強化コンクリート、カラーコンクリート、フェロコン、機械仕上げの緻密なコンクリート、若材齢コンクリート、磁器タイル、レンガ、石、舗装用ブロックなど

ユータックカラコンプライマーの施工上の注意事項

■施工前確認に関する事項

- 施工工事は、下地の状態や施工環境（気温、湿度、下地、天候、立地環境）により、施工時間や塗料の硬化時間、養生時間が変化します。このため、十分に施工及び監理者と打ち合わせを行い、施工計画を組んでください。
- 不飽和ポリエステル系やビニルエステル系、MMA系樹脂系（メタクリル酸系）樹脂塗料の下塗りとしては使用できません。適合し塗りを確認してご使用ください。
- 下地の種類と状態を確認してください。下地との付着が不明な場合は、許可を得たうえで適切な処理を行い、試し塗りを行った後、仕様を決定してください。
- 施工する強化コンクリート床面下の防湿層の有無を確認してください。強化コンクリートの下に防湿層がない場合、フクレが発生する場合があります。防湿層がない場合には設計、元請、施工業者で必ず対策を協議してください。
- 強化コンクリートは塗料が浸透しにくいいため、必ず、研削機やブラストなどで表面を研削してください。
- 強化コンクリート表面を研磨や研削し、薄膜塗料をそのまま施工すると下地状態が塗膜表面に出てきますので、厚膜塗料での仕様をお奨めします。
- 改修工事の場合、既存塗膜の種類や付着状態を確認してください。既存塗膜の種類によっては使用できない塗膜もあります。また、下地との付着が不明な場合は、許可を得たうえで適切な処理（表面研磨や油分、汚れの除去など）を行い、試し塗りを行った後、仕様を決定してください。付着不良や溶剤などの影響により既存塗膜を剥りフティング（塗膜の手剥し）やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ずご確認のうえ塗装仕様を決定してください。
- 水を使用する仕面の場合は、下地の水勾配が適切に確保されていることを確認してください。塗料の施工による勾配調整はできません。また、施工後に水たまりができると、塗膜の白化、艶引け、損傷、剥離などの不具合が発生する場合があります。
- シリコン系の材料やワックスが施工面に無効化を確認してください。これらの成分が床面にあったり、施工作業の近くでシリコン系スプレーが使用され、施工面に付着すると、ハジキなどのクレームにつながります。
- 研削機などの使用により騒音や粉じん、振動が発生する場合があります。騒音や粉じん対策を充分に行い、必要に応じて元請や施主、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。
- 本塗料は揮発性の化学物質（有機溶剤など）を含有し、臭気が発生します。あらかじめ元請や施主、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 臭気や周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、臭気づつかないような対策を行ってください。
- 学校や病院関連では、施工後にVOC室内濃度測定が指定されている場合があります。それぞれに指定された物質を含有しない塗料やシンナーを使用して施工してください。
- 特定化学物質障害予防規則の対象となる塗料は、同規則に従い作業主任者を選任するなどの法令遵守をお願いします。
- 各製品の取り扱いの際は、塗料は用途・用法を守り、本カタログやカタログ「製品案内 ニットク」の塗り床材 ユータックシリーズ」、施工仕様書、SDSをよくお読みになり正しくご使用ください。
- 記載が無い事項については、公共建築工事標準仕様書および同監理指針、公共建築工事改修工事標準仕様書および同指針や塗り床ハンドブック（日本塗り床工業会）を参照ください。

■施工環境に関する事項

- 屋外施工において、施工当日から翌日にかけて結露や強風、降雨、降雪が予測される場合は施工を避けてください。
- 気温が35℃以上または5℃以下、湿度80%以上の環境での施工は避けてください。
- 未乾燥（未硬化）状態の塗膜に雨や夜露、結露が当たると、艶引けや造膜不良、白化、付着不良、変色などの不具合が生じる恐れがあります。
- 冬季や夜間に気温が低下した際は硬化乾燥に時間がかかるため、作業時間を考慮してください。5℃以下の低温下では塗膜の硬化乾燥が速くなり、施工間隔や養生時間が変わります。結露などの水分の影響を受けやすくなるため、施工後の温湿度管理に注意を払ってください。特にエポキシ樹脂系塗り床材である本製品の硬化は極端に遅くなります。
- 高温時には可使時間が短く、硬化乾燥が速くなるため、レベリング不良や泡抜け跡の発生など仕上りに異常が発生することがあります。
- 施工現場の条件が上記条件を外れる場合、施工を取りやめるかヒーター、送風機、スポットクーラー、除湿機などを用いて施工現場の温湿度、および材料の温度を適正な状態に保つように処置を行ってください。
- 本製品は、硬化の途中で水分と触れると白化する場合があります。なお、白化が生じても塗膜の物性（性能）には影響がありませんが、必ず、白化部分はサンディング除去してください。
- 高温下では塗膜表面が艶引けや白化を生じます。地下室など換気の悪い環境では湿度が高くなります。送風機などを用いて環境の改善を行ってください。
- 外部と接している出入り口や開口部、窓周辺は、屋内でも屋外と同じような条件になる場合があります。また、風の吹き込みや結露などの水分の影響を受け、その周辺の塗膜に白化や光沢

変化など影響が出る場合があります。塗料をご使用前に必ず、現場を確認し、それぞれに対応した処置を行ってください。また、状況によっては施工を中止してください。

- 施工時は、できるだけ粉塵やゴミが舞わない環境にしてください。養生期間中にそれらが付着すると、仕上りに影響します。

■下地調整に関する事項

- 「NTカチオンタイトF」や「NTカチオンフィラー」などのカチオン系下地調整材は使用しないでください。
- 既存塗膜や基材に、ワックスや油分が残っている場合は、クリーナーなどを用いて完全に除去したのち、研削機や研磨紙付きポリッシャーなどで必ず研磨してください。
- ひび割れがある場合、そのまま材料を施工してもひび割れを隠すことはできません。また、施工後に今まで見えなかったひび割れが見えるようになる場合があります。このため、適切に処理してください。
- 欠損部、段差などの凹凸部分、巣穴などは、適切に処理してください。特に厚膜塗料を施工する際は、ピンホールやフクレの抑制のためにも、必ず、実施してください。
- 下地の状態により上塗りの仕上りが変わります。下地の状態を均一にしてください。
- 無溶剤形塗料などの厚膜塗料の施工時、コンクリート面端末はダイマッドカッターにて溝切り（5mm×5mm程度）を行った後、塗料を施工して端末からの剥離がないようにしてください。

■塗料の仕様・調合に関わる事項

- 本製品は標準施工仕様書に従って施工してください。標準施工仕様は、あくまで「標準」的な仕様であり、下地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより使用量や可使時間などに多少幅を生じることがあります。
- 使用する塗料および希釈剤（シンナー）は必ず標準施工仕様書に記載されたものを使用し、他の塗料と混合しないでください。
- 本製品は調合時や使用前に電動かくはん機などで充分にかくはんしてください。塗料を小分けして使用する場合は、あらかじめ塗料缶の内容物を均一になるようにかくはんしてから小分けを行い、秤を用いて計量し塗料の調合を行ってください。
- 本製品の場合は、必ず、秤を用いて標準施工仕様書の配合比で調合し、電動かくはん機などで充分にかくはんしてから施工してください。A液、B液は標準施工仕様書通り計量し混合しないと物性低下などの不具合が発生します。硬化不良が発生した塗膜は除去して、再施工してください。
- 角缶内でA液、B液塗料を混合かくはんする時は、缶の隅や底、側面の塗料が混合されていない場合があります。注意してかくはんを行ってください。
- かくはん機の選定を行ってください。回転が速い、羽の形状が異なるなどの条件によっては、混合かくはん中に泡を巻き込み施工後にも泡が残ることがあります。また、かくはんの際に泡が立たないように注意して行ってください。かくはん時間が長すぎても泡の発生につながります。
- 計量・混合かくはんする作業場所は養生シートを敷き、未混合の塗料やかくはん不足の塗料が施工面に付着しないようにしてください。また、塗料がこぼれたら直ちに除去してください。缶の底に未混合の塗料が付着した場合も同様に除去してください。施工面に未混合やかくはん不足の塗料が付着した場合、その部分が外観不良や剥離の原因となります。
- 本製品を混合した缶などは使いまわしをしないでください。混合の都度、新品を用いるか、きれいに洗浄、乾燥を行った後に使用してください。
- 本製品を調合し時間が経過した反応硬化が進んだ塗料と新たに調合した塗料を混合しないでください。可使時間が短くなったリゲルやブツが生じ施工不良を生じることがあります。

■施工に関する事項

- プライマーは、塗り残しのないように施工してください。
- 施工時は、可使時間を守って施工してください。施工時間を過ぎても塗料粘度が変わらない塗料もあります。使用前に、可使時間や施工間隔など塗料の施工上の注意事項、取り扱い注意事項をご確認のうえ施工してください。不明な場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 標準施工仕様書の使用量を守ってください。多すぎても少なすぎても仕上り不良や塗膜性能が発揮されない場合があります。
- 風化面、吸い込みの多い下地の場合には、プライマーを増し塗りしてください。プライマーの使用量は濡れ色になるまでを目安としてください。増し塗りは、下塗り硬化後に行ってください。
- 一度調合した塗料は必ず可使時間内にご使用ください。可使時間を過ぎた塗料は使用しないでください。作業性、付着力の低下や仕上りなどが悪くなります。なお、可使時間は塗料温度と雰囲気温度に依存します。夏季は特に短くなりますのでご注意ください。
- 施工間隔（塗り重ね時間）は施工現場の温度、湿度、換気、風通し、下地の状態などにより変わります。現場の状況や塗膜の硬化乾燥状況を確認しながら施工してください。
- 施工間隔が一定以上経過した場合、次工程の塗料の付着が低下します。施工間隔を守って施工してください。また施工間隔が、標準施工仕様書に規定された時間以上経過した場合は、目粗しなどの処理やプライマーなどを施工する必要があります。
- ローラーと刷毛など施工方法が混在する場合使用量、表面肌質が異なることで上塗りの仕上りに差が出ることがあります。

- ローラー施工する場合、ローラーの種類によってはローラーの毛が取れて塗膜に混入することがあります。ローラーの選定には充分ご注意ください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により上塗りの色や仕上りが異なって見える場合があります。
- 塗膜の硬化乾燥が不充分の状態で次工程を施工すると再溶解やリフティング（塗膜の手剥し）が発生する場合があります。硬化乾燥していることを確認してから施工してください。
- 養生テープは、工程ごとに養生テープを貼り替えてください。また、養生テープは塗り床材が硬化する前に除去してください。塗膜が硬化した後では、養生テープの除去が困難になります。
- 上塗りにクリヤー塗料の使用は避けてください。紫外線の透過により本製品の塗膜が劣化し、はく離の原因になります。
- 冷蔵庫周辺や冷蔵庫内の施工では、結露や下地に含有している水分の影響を受け、施工後に塗膜の剥離や外観不良などの不具合が発生する場合があります。結露水や下地の水分には充分に注意してください。
- 本製品は一度に厚塗りせず、たまりがでないように施工してください。たまりができると仕上りに影響します。

■取り扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合ABC粉末消火器にて消火するなど適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中とともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないようにし、有機溶剤の蒸気を吸わないように必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋、および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた塗膜は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器（取っ手を含む）はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときは、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で充分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- エポキシ樹脂系塗料は体質により皮膚障害などの感作を受ける場合があります。医師の指導を受け必要な措置を講じてください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い室温で以下、40℃以上にならない屋内で保管してください。現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品の取り扱い並びに輸送及び保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種適用法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート（SDS）をご参照ください。

※製品改良のため、説明書の内容を予告なしに変更することがありますのであらかじめご了承ください。
その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください。



日本特殊塗料株式会社

〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323

●日本特殊塗料ホームページ <https://www.nittoryo.co.jp/>

■お問い合わせ先

東京営業所 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
神奈川営業所 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
中部営業所 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124

大阪営業所 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
中四国営業所 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
九州営業所 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762